

11月20日 サムエル記下5章1～5節 今日の説教から

説教題：「イエス様が王であるという事実」

今日の聖書箇所では、ダビデが油を注がれて正式に「ダビデ王」となった場面が描かれています。イスラエルの民にとって「王」として代表的な人物は三人います。一人目が「最初の王サウル」二人目が「理想の王ダビデ」三人目が「栄光の王ソロモン」です。なかなかこの「王」という存在を学ぶ機会も少ないので、今日はこの三人に注目してみましょう。

イスラエルの民の最初の王であるサウル王は、当時ペリシテ人という大きな脅威に対して、軍事的に一致団結するために即位することになりました。しかし、その王政もいつまでも安泰であったわけではありません。サムエル記上15章では、サウルが神様の命令に背いて戦利品を着服してしまい、神様の怒りによって王の資格を取り上げられてしまいます。

次に即位したダビデ王は、若い頃のペリシテ人との闘いの中で巨人「ゴリアテ」を打ち倒して活躍するのですが、その人気に嫉妬したサウル王によって命を狙われます。ダビデは神様の声に導かれてユダのヘブロンという町に逃れ、そこでユダの王として正式に油を注がれ、イスラエル王国へと引き返しました。ここが今日の聖書箇所になります。二つに分かれかけた王国を一つにまとめ上げ、軍事的な意味でも大きな働きをしたダビデの業によって、ダビデ王は「理想的な王」として人々から理解されました。そのダビデの活躍を知っているからこそ、後のバビロン捕囚などの時代に「自分たちを苦難から解放してくれる第二のダビデが現れて私たちに救い出してくれる」という信仰が生まれることになります。しかし、そのダビデ王も欲望によって過ちを犯し、家督争いによって多くの息子を失うことになります。

家督争いによって突然王位を継いだソロモンは、外交によって平和な時代をイスラエル王国にもたらしめました。また、エルサレム神殿の建築もソロモン王の時代のことで、3年の年月をかけて立派な神殿を作り上げました。そのように「栄光の王」「ソロモン王の栄華」と称えられることが多いソロモン王ですが、彼は自分の王位を脅かす可能性のある者を次々と粛清したり、外国から多くの妻を娶ったりと、かなり乱暴な王でもあったようです。

私たちの王様であるイエス様は、これらの王とは全く違う方です。本当に正しい王様がその国民を限りなく慈しむように、自分の都合ではなく神様の御心を叶えるためにその人生のすべてを捧げたイエス様は、私たちのことを限りなく慈しんでくれる方です。そして、イエス様の支配の中では、全ての人々が「同じ神様に愛される国民」なのです。だからこそ、私たちの間に区別も差別もありません。肌の色、信条、老若男女、すべての違いを包み込む「支配」が、イエス様が王であるというその事実によって示されているのです。

来週からアドヴェントが始まり、イエス様の誕生を祝うクリスマスが一步ずつ迫ってきます。クリスマスのその夜に博士たちが黄金、乳香、没薬を捧げに来た、「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです」と、王様への捧げ物を捧げるに相応しい存在であるイエス様の誕生が、もうすぐそこまで迫っています。その期待を胸に抱きながら、今週一週間の歩みを、そしてクリスマスに向けた歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：サムエル記下 5 章 1～5 節

- 1:イスラエルの全部族はヘブロンのだビデのもとに来てこう言った。「御覧ください。わたしたちはあなたの骨肉です。これまで、サウルがわたしたちの王であったときにも、イスラエルの進退の指揮をとっておられたのはあなたでした。主はあなたに仰せになりました。『わが民イスラエルを牧するのはあなただ。あなたがイスラエルの指導者となる』と。」イスラエルの長老たちは全員、ヘブロンのだビデのもとに来た。だビデ王はヘブロンで主の御前に彼らと契約を結んだ。長老たちはだビデに油を注ぎ、イスラエルの王とした。だビデは三十歳で王となり、四十年間王位にあった。七年六か月の間ヘブロンでユダを、三十三年の間エルサレムでイスラエルとユダの全土を統治した。